

事業の名称等

2023 年度あいちの未来クリエイト部



ねらい

- ・高校生の環境問題に対する関心や環境意識を高め、課題発見能力や課題解決能力を育む。
- ・高校生が仲間とともに自分たちで考えながら取り組むことで、主体性、協調性を育む。

学習者の状況

- ・環境への興味や活動レベルは様々である。
- ・どのように調査に取り組めばよいのか分からない。
- ・顧問の指導に従い、活動に対して受け身の態度の生徒が多い。

成果指標

- ・高校生の環境問題に対する関心や環境意識を高め、課題発見能力や課題解決能力を育むことができたか。
- ・高校生が仲間とともに自分たちで考えながら取り組むことで、主体性、協調性を育むことができたか。

取組の内容

工夫

学習者の反応

学習の効果&主に育まれる力

- 1 キックオフミーティングで活動のオリエンテーションを行い、今後に資する講義を受講後、活動内容を検討（7月）

- ・アドバイザーや講師から、伝えたいことを分かりやすく他者に伝えるコツや話し合いのコツについて講義を受け、活動開始の準備をサポート。
- ・質疑応答の時間を設けて発言を求めることで、積極的な参加を促進。
- ・ファシリテーターがサポートしつつ、高校生中心で今後の活動内容を検討。

- ・最初は何をするか不安だったが、講義を受けて今後の活動のポイントが分かった！
- ・講義の内容を消化して、質疑応答の時間に質問することができた！
- ・どのような内容でこれから調査・研究を進めていこうかな？

- ・講義の内容から、今後の自分たちの活動の進め方を具体的にイメージしやすくなった。
- ・自分の考えや疑問を発言する機会で積極性を育んだ。
- ・調査・研究の内容や方向性を自分たちで決定することで、興味関心を高めた。

- 2 専門家の支援を受けてフィールド調査やデータ分析等の調査・研究を実施（7月～11月）

- ・高校生が主体的に調査・研究を行えるよう、高校ごとにテーマに沿った専門家が必要に応じて助言。

- ・専門的知識と照らし合わせながら、的確な支援を受けられ、スムーズに研究を進められた！
- ・自分の知らないことや知らない方法を知ることができ、考えの幅が広がった！

- ・体験から自ら感じ、学ぶことができた。
- ・専門家からアドバイスをもらえるという貴重な体験を通して、自信がついた。

- 3 調査研究発表会（中間発表会）を実施（11月）

- ・調査・研究を振り返り、活動内容の理解を深めるため、成果を披露する調査研究発表会を実施。
- ・調査研究発表会に過去の参加校も出席し、研究発表や交流の機会を提供。

- ・いろいろな高校の発表を聞けて、視野を広げることができた！
- ・より分かりやすく、見やすいパワポや発表ができると良かったと思った！

- ・発表に向けて自分のこれまでの活動を振り返ったり、発表を聞いた人から感想や質問等をもらったりすることで、新たな気づきや課題を見つけることができた。

4 調査・研究の成果を基に、誰に何を伝えたいか話し合い、意見をまとめた環境学習教材を作成し、実演（11月～2月）	- 調査・研究で得た知識を基に、伝える対象・内容を意識して教材の作成を進められるよう、ファシリテーターが支援。 - 作成した教材を体験した周囲の人から、感想や改善点などをフィードバック。	- 大変なことも多かったが、中学校へ行き中学生に楽しんでいただけたようで良かった！ 「もっと計画を立てておけば…」「もう少し時間があつたら…」と思う時も多々ありましたが、伝えたいことを形にしたことの達成感が嬉しかった！	高校生が自ら考え、仲間とのディスカッションを行いながら、学んだ成果を教材という形にできた。
5 活動報告会を実施（3月）	- 調査研究成果とそれを基にした教材を発表し、実際に教材を体験。 - 大学生やあいち eco ティーチャーとの交流会を行い、世代間の交流の場を創出。	- 自分では思いつきもしないような点などからの活動を知ることができたので良かった！ - どの世代も幸せになれるような社会をつくっていく必要があるとシニアの人の発表を聞いて思った！	教材を活用し、学びを周囲に広げることができた。

■2023 年度あいちの未来クリエイイト部 高校生が、専門家の支援を受けて地域の環境問題に関する調査・研究を行い、その結果を基に環境学習教材を作成するとともに、その教材を活用し、普及啓発する。	  学習者の変容 【高校生へのアンケート結果から】 - 環境についての意識が少し上がった。 - 一つの視点だったのがいろいろな視点で物事を見られるようになった。 - 自身の意見を積極的に発言するようになった。 - 計画を立てて進めることの大切さ、他の人との連絡の大切さを実感した。 【顧問へのアンケート結果から】 - 研究に対して、自分ごととして、取り組むことができるようになったと思う。 - 回を重ねるごとに、積極的になっていく様子が見受けられた。また、発表にも少しずつ慣れていき、活発になったと実感している。 - 全員で協力して1つのものをつくりあげることで、結束力が高まった。	成果と課題 【成果】 - 活動の中で課題を見出し、それを解決するための調査・研究を検討して実践することにより、課題発見能力や解決能力が育まれた。 - 自分の考えを積極的に述べ、仲間と協力しながら取り組むことができるようになり、主体性や協調性の向上につながった。 - 前年度（2022 年度）の「調査・研究時に生徒と専門家の接点を増やす」という課題に対応するため、専門家と対面で話す機会が増えるよう配慮した。 【課題】 - アンケート結果を見ると、本事業への応募にあたって「専門家の支援が受けられる」ことへの期待が高く、引き続き、調査・研究時に生徒と専門家との接点を増やすことができるようにしたい。
--	---	---